

3 最上氏時代堀跡(SD16064)出土遺物

※遺物写真の縮尺は統一していません。

【上層出土遺物】～建物火災後の一括廃棄痕跡の様相～

上層からは極めて多量の屋根瓦類が出土しました。その特徴は鬼瓦の文様の多様さと、「**金箔瓦**」が非常に多いことです。また、焼けた「**壁土**」には薄く化粧漆喰が認められ、漆喰壁をもつ本瓦葺建物が焼失した事実がうかがえる点です。以下に鬼瓦を写真で紹介しします。



金箔押沢瀉(オモダカ)紋黒鬼瓦



宝袋(巾着)紋黒鬼瓦



果実(一つ桃)紋黒鬼瓦【焼失痕】



金箔押三花卉紋黒鬼瓦



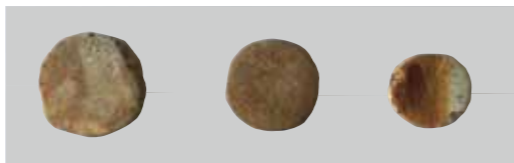
果実(三つ桃)紋黒鬼瓦【焼失痕】

【下層出土遺物】～生活・儀礼に伴う廃棄痕跡の様相～

下層からは、多様な有機質遺物が出土しました。箸・容器側板・下駄・櫛など用途が分かるもののほか、建築部材や壁土芯材の竹の破片があります。その他【**基石**】と考えられる石製品や、中国から輸入された磁器【**染付中皿・大皿**】など嗜好品と考えられる遺物が出土しました。



花鳥紋染付大皿(中国産?)



基石(石製品)



獅子紋染付中皿(中国産)



櫛(木製品)

編集後記

現地説明会開催に当たり関係各位に多大なご理解・ご協力を賜りましたこと誠に感謝申し上げます。なお、山形城跡の復原事業に係り山形市では関連する資料を探しています。お心当たりの方は下記までご連絡下さいますようお願いいたします。
【お問い合わせ先】〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号 山形市まちづくり推進部公園緑地課 TEL023(641)1212(代)
【編集・発行】山形市教育委員会 社会教育青少年課 文化財保護係

史跡山形城跡(2017) 本丸御殿跡発掘調査 現地説明会資料

平成29年11月11日(土) 山形市教育委員会 社会教育青少年課

調査要項

遺跡名	国指定史跡 山形城跡
所在地	山形市霞城町(霞城公園)
遺跡番号	1番(山形県遺跡地図)
調査期間	平成29年5月18日～12月28日(予定)
調査面積	本丸御殿跡 約1,300㎡(説明会開催対象)
調査原因	史跡山形城跡(霞城公園)整備事業(文化庁補助事業)
遺跡種別	城郭(近世城郭)
時代	近世・近現代
遺構	堀跡・石垣・溝跡・礎石根固石列・石列遺構 など
遺物	瓦類・陶磁器碗皿類・土師質土器・木製品・金属製品・古銭・石製品 など
調査事業の主体	山形市まちづくり推進部公園緑地課
調査実施の機関	山形市教育委員会
調査担当	山形市教育委員会 社会教育青少年課

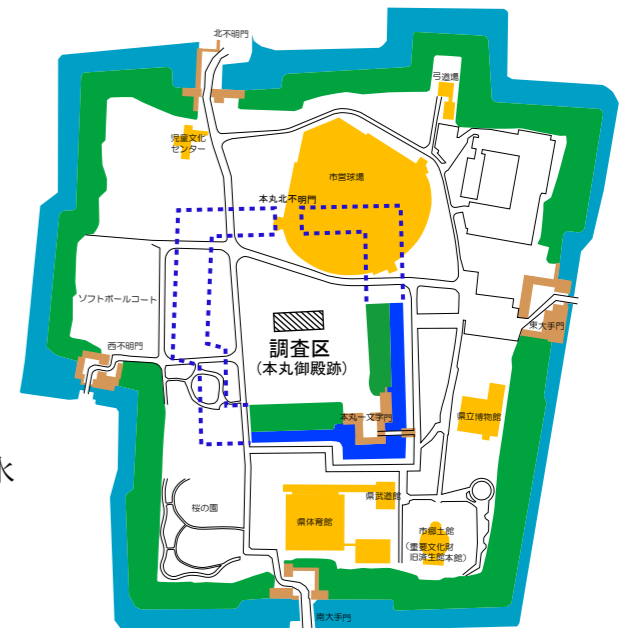
1 概要(史跡の立地及び周辺環境)

山形城跡は、最上義光が整備したといわれる本丸・二ノ丸・三ノ丸からなる平城です。昭和61年に国史跡指定を受けて以来整備に取り組み、二ノ丸東大手門や本丸一文字門石垣などを復原し、新たなシンボルとなっています。

平成23年度より「本丸西堀・西土塁跡」の調査を文化庁の補助を受けて行っています。また、平成24年度より「本丸御殿跡」の整備を目的とした発掘調査を同補助により実施しており、西堀・西土塁跡と並行して調査を行っております。

城跡の周囲は市街地となっており、その中心に位置します。市街北部を流れる馬見ヶ崎川による扇状地上に立地し、本丸一文字門付近で海拔約130mを測り湧水地帯に築かれた平城であったと考えられます。

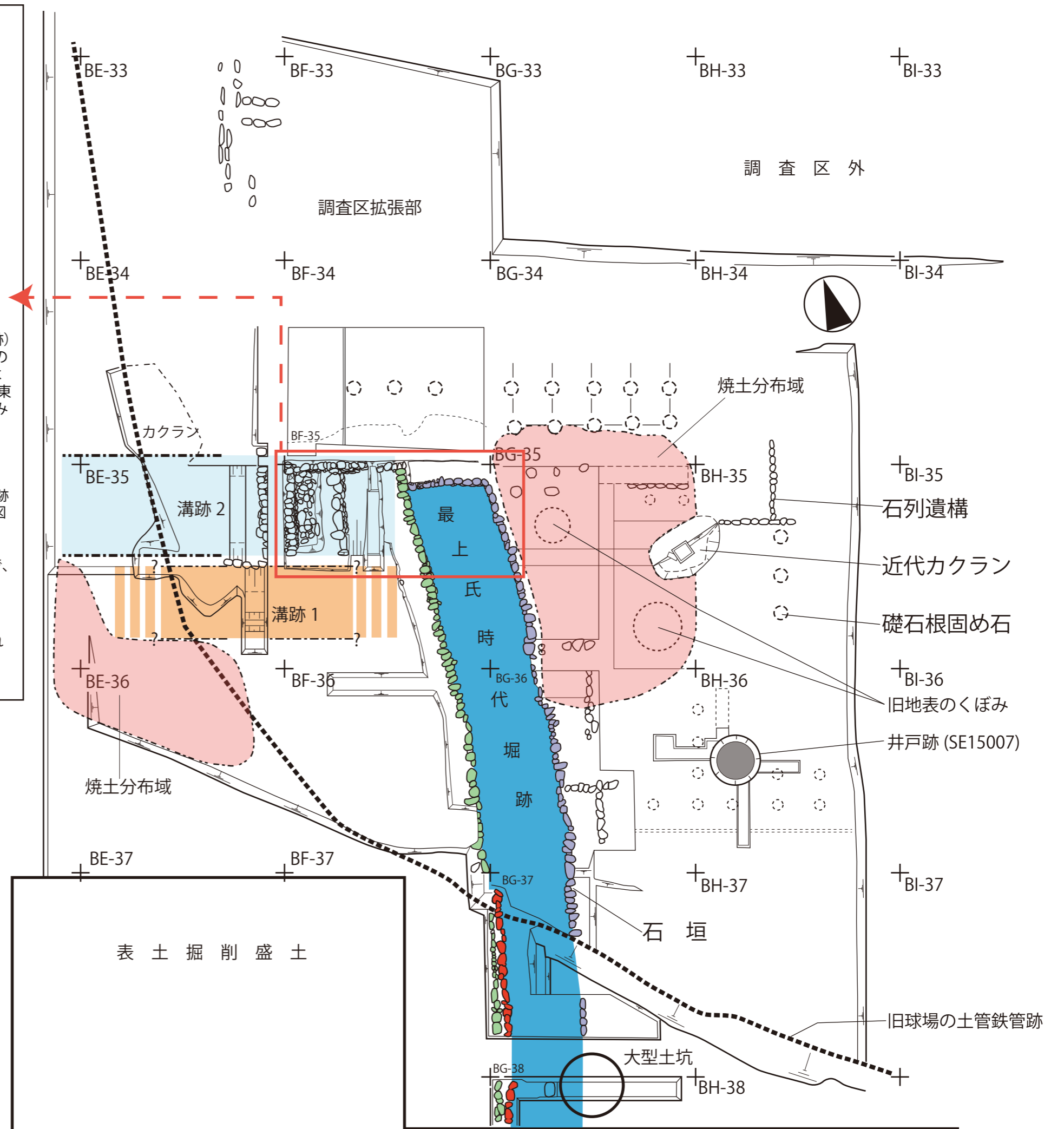
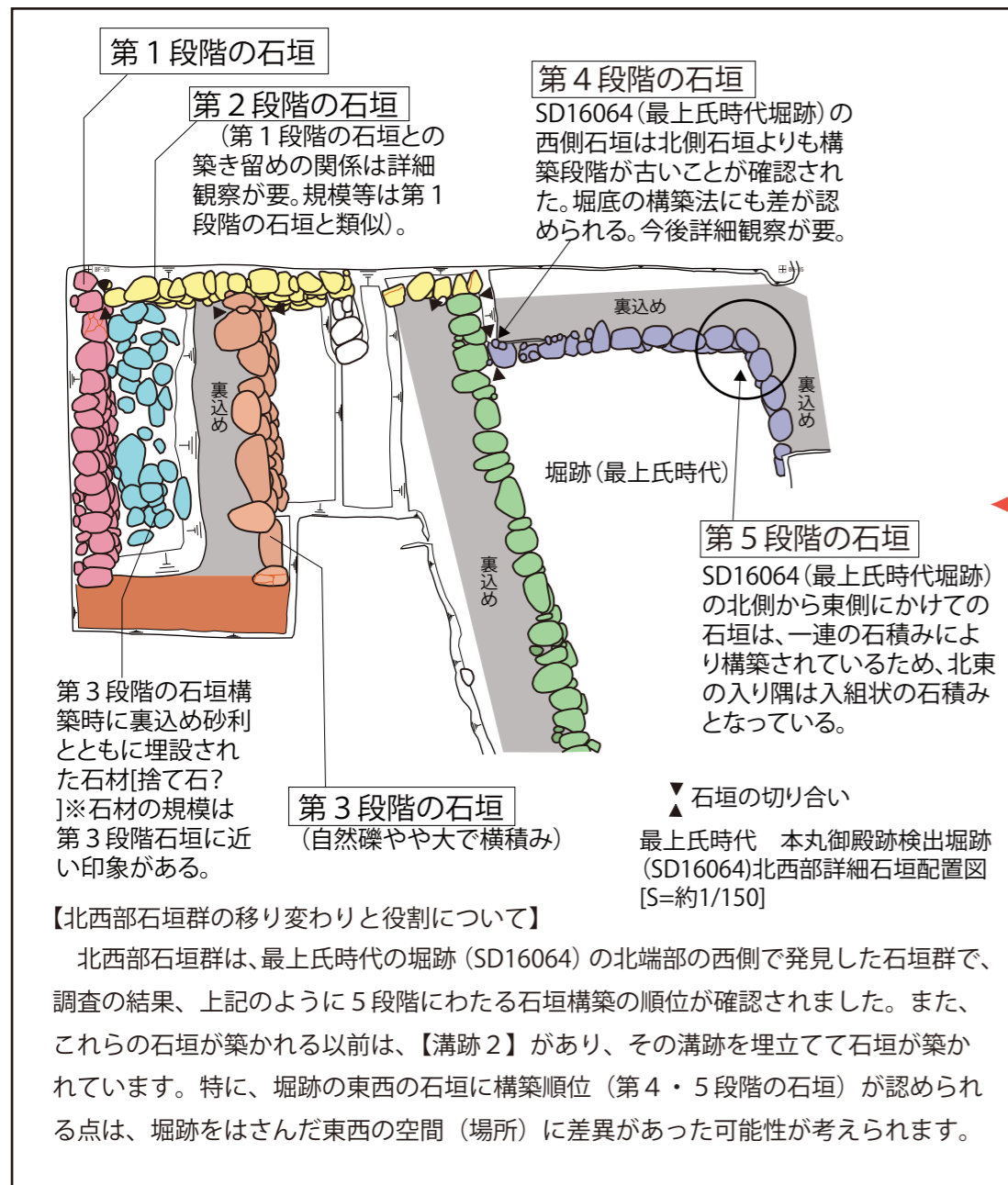
本丸御殿跡周辺は明治時代の改変により御殿に関連する表出遺構は消滅しており、地下遺構の調査が重要と考えております。



第1図 山形城跡調査区位置図

歴代藩主年表

和暦	西暦	藩主	石高
延文元年	一三五六	斯波兼頼	
慶長五年	一六〇〇	最上義光	
		最上家親	五十七万石
		最上家信(義俊)	
元和八年	一六三二	鳥居忠政	二十二万石
		鳥居忠恒	
寛永二十年	一六四三	保科正之	二十万石
正保元年	一六四四	幕府領	
慶安元年	一六四八	(結城)松平直基	十五万石
寛文八年	一六六八	(奥平)松平忠弘	十五万石
		奥平昌能	
		奥平昌章	九万石
貞享二年	一六八五	堀田正仲	一〇万石
貞享三年	一六八六	(結城)松平直矩	一〇万石
元禄五年	一六九二	(奥平)松平忠弘	一〇万石
		(奥平)松平忠雅	一〇万石
元禄十三年	一七〇〇	堀田正虎	一〇万石
		堀田正春	
		堀田正亮	一〇万石
延享三年	一七六六	(大給)松平乗佑	六万石
明和元年	一七六四	幕府領	
明和四年	一七六七	秋元涼朝	
		秋元永朝	
		秋元久朝	
		秋元志朝	六万石
弘化二年	一八四五	水野忠精	
		水野忠弘	五万石



2 発掘調査のまとめ

平成29年度の本丸御殿跡発掘調査の目的は、江戸時代中頃(1700年代)の御殿に関連する遺構を検出することでした。それを踏まえ、今年度の発掘調査の成果は次のとおりです。

- ①江戸時代中頃の遺構(特に井戸跡)は発見できませんでした。
- ②最上氏時代(江戸時代初期)の山形城本丸跡に係る遺構群を検出したこと、特に調査区中央の堀跡の詳細調査を行い、堀跡の姿とその北西部石垣群の構築順位を確認しました。そこから、かつて東西にあった堀跡を埋立て、さらに石垣を築き南北の堀へと移り変わる城の改修の姿を読み取ることができました。
- ③堀跡から出土した瓦には大量の【金箔瓦】が含まれていました。また鯨瓦のほか、数種類に及ぶ鬼瓦からは複雑な屋根構造や建物の多層性がうかがえます。その文様からは大名家の家紋という単一の意匠性のみではなく、瓦葺建物の導入にあたり近畿圏あるいは広く西国の寺院に係る造瓦職集団とのかかわりを示すと考えられます。

第2図 本丸御殿跡遺構配置概略図 S=1 / 200